

# トヨタ構内作業

## 安全衛生点検 チェックリスト



改定 平成24年4月1日

トヨタ自動車安全衛生協力会  
(指導分科会)

## 【目 次】

- 1) 工事管理板
- 2) K Y M
- 3) 作業責任者
- 4) 作業服装・作業場
- 5-1) 高所作業(2 m以上)
- 5-2) 高所作業車作業
- 6-1) フォークリフト作業
- 6-2) フォークリフト高所作業
- 7) クレーン等作業・玉掛作業
- 8) 荷の仮置作業
- 9) チェーンブロック作業
- 10) ウインチ作業
- 11) バックホー(ユンボ)作業
- 12) 電気工事作業
- 13) 電動工具・電気機器
- 14) 火気使用作業
- 15) アーク溶接作業
- 16) ガス溶接作業・溶断作業
- 17) 設備内修理・点検作業(ロックアウト)
- 18) 酸素欠乏危険作業
- 19) 有機溶剤作業
- 20) 騒音・粉じん・振動・砥石取替作業
- 21) その他

### 《指摘ランクによるイエローカード発行基準及び提出書類内容》

ランク		* 勉強会出席 イエローカード発行	改善通知書提出	対策書提出
(A)	重要指摘	毎回	毎回	毎回
(B)	一般指摘	5回目	毎回	毎回
(C)	書面指導	10回目	毎回	10回目

(\* 勉強会の開催は審査会で決定する。)

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
1:工事管理板	1	A	工事管理板なし。
	2	A	本日作業指示書なし。
	3	A	作業員名簿なし。(氏名・緊急連絡先・資格一覧は必須項目)
	4	A	工事通知書、客先許可証なし。
	5	B	作業指示書に作業内容(手順)を具体的に3項目以上記入なし。 (KYM・4Sは除く)
	6	C	工事看板なし。
	7	C	労災保険番号表示なし。
	8	A	管理部署よりの危険有害情報を記録しているか。
	9	A	自社リスクアセスメントが実施されているか。
2:KYM	1	A	作業開始前全員でKYMを実施し記録は掲示してあるか。
	2	B	KYM実施記録と本日作業がマッチしているか。
	3	B	全員の健康確認はしてあるか。
	4	B	全員のサイン(フルネーム)はしてあるか。
	5	B	現地現物でKYMを実施しているか。
	6	B	危険ポイント抽出を文章で記入しているか(チェック選択方式は不可)
3:作業責任者	1	A	有資格者が従事しているか。(高所作業・感電防止特別教育を含む)
	2	A	直接指揮監督できる単位作業場所毎に常駐しているか。
	3	A	検電器は携帯しているか。
	4	B	腕章を着用しているか。
	5	B	作業責任者証はすぐに提示できるか。
4:作業服装・ 作業場	1	A	当該作業の危険防止に適したヘルメットで作業をしているか。
	2	A	危険箇所(開口部等)の表示及び安全柵等の対策は確実か。
	3	B	作業に適した服装であるか。
	4	B	作業内容に適した保護具を着用しているか。
	5	B	作業場の整理整頓・材料等の転倒防止措置はされているか。
	6	C	ヘルメットのご紐をしっかり締めているか。
	7	C	ヘルメットに会社名が表示してあるか。
	8	C	消火設備・救急設備の周囲のスペースは確保されているか。
5-1: 高所作業 (2m以上)	1	A	足場は正しく設置されているか。 (イ) 吊り足場(ゴンドラの吊り足場を除く)・張り出し足場、又は高さが5m以上の足場の組立・解体並びに変更の作業には作業主任者が選任され、又、5m未満の場合は作業責任者が指揮をしているか。 (ロ) 壁つなぎは適正に設けられているか。 〔 単管足場 垂直5m以下 水平5.5m以下 枠組足場 垂直9m以下 水平 8m以下 〕 (ハ) 建地の脚部には滑動及び沈下防止対策がされているか。 (ニ) 材料に著しい損傷、変形、腐食等はないか。

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容	
5-1 : 高所作業 (2m以上)	2	A	安全な作業床が設けてあるか。(幅40cm以上、隙間3cm以下、高さ90cm以上の手摺) 作業床が設置できない場合は安全ネット、親綱等が設けられていて、 安全帯を正しく(移動時は2フック)使用しているか。	
	3	A	有資格者が従事しているか。	
	4	A	開口部、作業床の端部に手摺、蓋等の墜転落防止処置がしてあるか。	
	5	A	高さ深さ1.5mを越えた場合は安全に昇降できる設備が設けてあるか。	
	6	B	垂れ幕を通行人から見易い場所に掲示してあるか。	
	7	B	投げ上げ・投げ下ろしはしていないか。	
	8	B	工具・機材等の落下防止対策は確実か。	
	9	A B B	梯子は正しく使用されているか。 A (イ) 損傷はないか(滑り止め)。上部結束又は下部の支えを行 っているか。 B (ロ) 手に物を持って昇降していないか。 B (ハ) 60cm以上の上部つき出し部分は確保してあるか。	
	10	A A B	脚立は正しく使用されているか A (イ) 開き止め金具に損傷はないか、滑り止めはあるか。 A (ロ) 脚立の天板の作業禁止は守られているか。 B (ハ) 脚立の梯子代用禁止は守られているか。	
	11	B B B	うまは正しく使用されているか B (イ) 脚立として代用していないか。(単独使用禁止) B (ロ) 2m以上のものを使用していないか。 B (ハ) 足場板は3点支持もしくは2枚重ねとし両端は10cm以上 20cm以下はね出し、結束してあるか。	
	12	A A A B B B C	ローリングタワーは正しく使用されているか。 A (イ) 最上部の手摺は90cm以上で中棧、幅木が取り付けられているか A (ロ) 上部に人を乗せたまま移動はしていないか。 A (ハ) 作業者は安全帯を使用しているか。 B (ニ) 昇降設備は取り付けられているか。 B (ホ) 車輪のストッパーは確実にロックしてあるか。 B (ヘ) 転倒する危険はないか、3段以上の場合にはアウトリガーを 使用しているか。 C (ト) 積載荷重の表示はあるか。	
	13	B	組立足場に昇降設備はあるか。(ビデー足場について特に注意する)	
		14	A A A	<u>クレーンの走行危険範囲内の正しい対応はされているか。</u> <u>①(クレーン最下部から垂直距離1.8m以内)(高所作業車・トラッククレーン等含む)</u> <u>②(クレーンのガード等から1m以内) ③(天井クレーン上すべての空間)の部分</u> A (イ) <u>作業管理部署及びクレーン使用部署の許可を得て記録はあるか。</u> A (ロ) <u>主電源を遮断し、ロックアウトをしているか。ロックアウトが</u> <u>付いていない場合は「スイッチ入れるな」の札をにかけているか。</u> A (ハ) <u>主電源を遮断できない場合は、監視人をつけ監視をしているか。</u>

H  
2  
4  
年  
4  
月  
追  
加

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
5-2: 高所作業車 作業	1	A	有資格者が操作しているか。 (能力10m以上⇒技能講習/10m未満⇒特別教育)
	2	A	作業者は安全帯を使用しているか。
	3	A	主たる用途以外に使用していないか。
	4	A	作業床以外の箇所に搭乗をしていないか。
	5	A	オーバーロード(過荷重)で作業をしていないか。
	6	B	特定自主検査は実施され検査標章があるか。
	7	B	始業前点検は実施され、記録されているか。
	8	B	エンジンをかけたまま乗車席を離れていないか。
	9	B	アウトリガーを使用しているか。
	10	B	高所作業範囲内(フロア上)立ち入り禁止措置はされているか。
6-1: フォークリフト 作業	1	A	運転者は有資格者が従事しているか。(1t以上:技能講習、1t未満:特別教育)
	2	A	フォークの爪の上に直接乗って作業したり、積荷やフォークの下で作業していないか。
	3	A	オーバーロード(過荷重)で作業していないか。
	4	B	特定自主検査は実施され検査標章があるか。
	5	B	始業前点検は実施され、記録されているか。
	6	B	運転者離席時には、フォークの爪を床に降ろし、サイドブレーキを引きキーは抜いてあるか。
	7	B	制限速度は守っているか。又粗暴な運転をしていないか。
	8	B	フォークの爪にワイヤー及びナイロンスリング等、じか掛けして物を吊っていないか。
	9	B	シートベルトを着用しているか。(1t以上)
	10	C	建屋内はライトを点灯しているか。
	11	A	転倒の恐れのある荷(配電盤・ロボット・背高品・等)の固定はしているか。
	12	B	前方視界を妨げる積荷ではバック走行をしているか。 前進走行の場合には誘導者の合図に従って走行しているか。
6-2: フォークリフト 高所作業	1	A	作業者は安全帯を使用しているか。
	2	A	高所作業台は固定されているか。
	3	A	高所作業台の作業時には運転者は運転席にいるか。
	4	B	高所作業台は安全なものを使用しているか。 (手摺の高さ90cm以上、扉は内開き、制限荷重の明示)
	5	B	高所作業台に人を乗せて5m以上の移動をしていないか。

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
7:クレーン等 作業、 玉掛け作業	1	A	クレーン等の運転、玉掛け作業には有資格者が従事しているか。 (イ) クレーン運転免許証⇒吊り上げ荷重5 t以上の普通型天井クレーン ①機上で運転するクレーン ②床上で運転するクレーン ③無線で運転するクレーン(トヨタ構内では特別教育修了者) (ロ) クレーン運転技能講習⇒5 t以上の床上操作式天井クレーン (ハ) クレーン運転特別教育⇒5 t未満 (ニ) 玉掛け作業技能講習⇒クレーンの吊り上げ能力1 t以上 (ホ) 玉掛け作業特別教育⇒クレーンの吊り上げ能力1 t未満
	2	A	クレーン等のワイヤーロープの損傷はないか。
	3	A	クレーン等の過巻防止装置は正常か。
	4	A	クレーン等のフックは変形損傷していないか。フックの外れ止めは正常に作動するか。
	5	A	玉掛けワイヤーロープ・スリング等は傷、キンク、摩耗、腐食、素線切れ等の損傷はないか。
	6	A	玉掛けワイヤーロープ、吊具(シャックル・マグネット・クランプ・吸盤・等)は適正に使用しているか。 (イ) 吊り荷の荷重に合ったワイヤーを使用をしているか。 (ロ) 正規の玉掛けワイヤーを使用しているか。 (ハ) 鋭利な角には当てものを使用しているか。
	7	A	トヨタ自動車のクレーンを使用する場合、許可を受けているか。
	8	B	合図者を定め確実な合図を行っているか。
	9	B	吊り荷の下、旋回範囲は立入禁止処置がしてあるか。
	10	B	移動中の吊荷に手を添えていないか。
	11	B	移動式クレーンはアウトリガーを使用しているか。
	12	B	移動式クレーンは定期自主検査が実施されているか。
	13	B	3 t以上の移動式クレーンは有効な検査証が備え付けられているか。
	14	B	始業前点検は実施され、記録されているか。
8:荷の仮置作業	1	B	立掛けた荷・転倒の恐れのある自立物は強度が十分な器具(ワイヤー・金属等)を使用して転倒防止をしているか。
9:チェーンブロック 作業	1	B	ワイヤー等の外れ止めは機能するか。
10:ウインチ作業	1	A	ウインチ操作は有資格者が従事しているか。(特別教育)
11:バックホー (11ホ)作業	1	A	運転手は有資格者が従事しているか。 (車両系建設機械資格及び揚重作業時には移動式クレーン運転資格:5t以上・5t未満1t以上・1t未満)
	2	A	揚重作業時にはクレーン機能付き機を使用しているか。
	3	B	稼動中に旋回範囲に人が入っていないか。 ただし、誘導者を配置しその者に当該機を誘導させるときは、この限りではない。

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
12:電気工事作業	1	A	“二次側配線、断線”に関わる作業を行う者は、 低圧電気取扱特別教育を取得しているか。
	2	A	停電を確認（検電器等）のうえ作業をしているか。
	3	A	電気取扱作業者は全員が検電器等を携帯しているか。
	4	A	主制御盤・操作盤等のスイッチを切り、ロックアウトしているか。 設備的にできない場合は『スイッチ入れるな』の札掛けをしているか。
	5	A	活線近接作業には絶縁保護具、防具を確実に使用しているか。
	6	B	作業に応じた作業指揮者、監視人はいるか。
13:電動工具 電気機器	1	A	コードリール等の漏電遮断器は確実に作動するか。
	2	A	確実にアースされているか(二重絶縁構造・家庭用機器等は除く)。
	3	A	6ヶ月以内毎に絶縁(1.0MΩ以上)及び外観点検し点検済みシールが 貼ってあるか。(6月末、12月末)
	4	A	感電防止特別教育以上の電気に関する資格等を持っているか。
	5	B	電動工具の搬送時はスイッチを切った後、プラグを抜いているか。
	6	B	コード・ケーブル被覆の損傷箇所は、正しくテーピングされているか。
	7	B	湿潤している場所では防水用の器具(コネクタ等)が使用されているか。
	8	B	通路床面横断の配線は保護されているか。
	9	B	ハンドランプ・投光器等のガードは付いているか。
	10		工事用分電盤の状態は良いか。 A (イ) アースは確実に取り付けてあるか。 B (ロ) ひっかけ配線、タコ足配線をしていないか。 C (ハ) 分電盤に接続された電線には会社名が表示してあるか。
	11	C	コードリールの差込プラグ部に社名表示はあるか。
	12	C	制御盤等のコンセントから、電動工具等の電源を取っていないか。
14:火気使用作業	1	A	火気を使う作業では消火器(2本以上)・水バケツ(2ケ以上)・ 防火シート等が備えてあり、すぐに使える状態になっているか。
	2	A	火気使用許可(危険物施設内許可を含む)を受けているか。
	3	A	近くの危険物、可燃物、引火性ガス等への防護措置はよいか。
	4	B	監視人を置いているか。
	5	B	火気使用后、指定時間工事場所を監視しているか。
	6	B	『火気使用中』の垂れ幕は掲示してあるか。〔全区域〕
	7	B	グラインダー等による火花を発生する作業では防火対策を講じているか。
	8	C	高所での火気使用作業時は消火器(簡易型可)が準備されているか。

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
15:アーク溶接 作業	1	A	取扱作業者は有資格者が従事しているか。(特別教育)
	2	A	自動電撃防止装置は確実に作動するか。
	3	A	ホルダーの破損はないか。
	4	A	溶接機本体は、確実にアースされているか。
	5	A	ホルダーに溶接棒を挟んだまま放置していないか。
	6	A	雨天時、屋外で作業していないか。
	7	B	ケーブル取り付け部の露出、被覆破れはないか。
	8	B	遮光面、皮手袋等の保護具は確実に着用しているか。又建屋内及び屋外で通風換気の悪い所では防じんマスク(DS2以上)を着用しているか。
	9	B	アース側溶接ケーブルは被溶接物に確実に取り付けられているか。
	10	B	始業前点検は実施され、記録されているか。
16:ガス溶接作業 溶断作業	1	A	取扱作業者は有資格者が従事しているか。(技能講習)
	2	B	遮光メガネ、皮手袋等の保護具は確実に着用しているか。
	3	B	使用中のボンベは台車等に確実に固定されているか。
	4	B	調整器・圧力ゲージ・ホース類の損傷摩耗及び接続不良はないか。
	5	B	各接続部・ホース部よりガス漏れはないか。石鹼水等は用意してあるか。
	6	B	ボンベは管理表示(充・空・会社名)がされているか。
	7	B	使用時以外はアセチレン、酸素ボンベの元栓は確実に閉められているか。
	8	B	アセチレンボンベに逆火防止器は付いているか。
	9	B	始業前点検は実施され、記録されているか。
17:設備内修理 点検作業 (ロックアウト)	1	A	上下に動く機械内で作業している時は落下防止措置はしてあるか。
	2	A	有効範囲にロックアウトしているか。
	3	A	設備内立入者全員がロックアウトを実施しているか。
	4	A	施錠後は各自で錠前のキーを持っているか。
	5	A	ロックアウト出来ない作業等の場合で、稼動設備内へ入る場合は役割分担(監視人・非常停止等)が明確になっているか。
	6	A	残圧を抜いてロックアウトしているか。
	7	B	ロックアウト後は、『携帯プラグ(キースイッチ)』は設備内作業員又は作業責任者が携帯しているか。
	8	B	作業指示書等に錠前管理番号と氏名を記入しているか。
	9	B	対象設備から離れる場合、開錠しているか。もしくは表示しているか。
18:酸素欠乏 危険作業	1	A	作業主任者は選任されているか。(技能講習)
	2	A	作業員は有資格者が従事しているか。(特別教育)
	3	A	監視人は配置されているか。
	4	A	酸素濃度を定期的に測定し結果を記録してあるか。
	5	A	換気は十分に行われているか。

Aは重要指摘 Bは一般指摘 Cは書面指導

項目	No	ランク	指摘内容
19:有機溶剤作業	1	A	作業主任者は選任されているか。(技能講習)
	2	B	作業者は有資格者が従事しているか。(特別教育)
	3	B	建屋内作業の場合は有機溶剤用防毒マスク(検定品)又は送気マスク等を着用しているか。
	4	B	タンク内等の作業では十分な換気を行い、監視人を配置しているか。
	5	B	容器に蓋はされているか。
	参考		但し、タッチアップ(目安:第2種有機溶剤は1時間に消費する量60g未満で作業場の気積150m <sup>3</sup> 以上の場合)においては適用の除外となる。
20:騒音・粉じん 振動・ 砥石取替作業	1	A	砥石取替作業は有資格者が行っているか。(特別教育)
	2	B	振動工具使用作業は有資格者が従事しているか。(特別教育)
	3	B	85dB以上の騒音が発生する作業では耳栓を着用しているか。
	4	B	はつり作業等粉じんが発生する作業では、防じんマスク及び保護メガネを着用し有資格者が行っているか。(特定粉じん作業は特別教育)
	5	B	粉じんの拡散防止措置(養生、散水等)がなされているか。
21:その他	1	C	喫煙場所以外(歩行中等)で喫煙していないか。
	2	C	構内駐車禁止場所に駐車していないか。
	3	C	構内乗り入れ車には会員会社名が表示されているか。(レンタカー含む)